

[素 案]

登山計画作成のためのガイドライン

栃木県教育委員会

目 次

	頁
第1章 安全な登山実施のための基本姿勢	1
1 登山とは	
2 登山の意義・目的	
3 登山のリスク	
4 冬山登山、雪上活動訓練、冬季登山	
5 登山の実施に向けて	
第2章 登山における引率者	4
1 引率者の意義と役目	
2 引率者の要件	
3 引率者の人数	
4 アドバイザー	
第3章 安全な登山の実施に向けた登山計画の立案	6
1 計画立案の重要性	
2 立案時の留意点	
3 登山の組織体制	
4 山行地の選定	
5 事前指導・準備	
6 安全対策	
7 不測・緊急の事態への対応	
8 保護者への説明及び承諾	
第4章 登山計画書の作成	10
1 計画書作成の意義	
2 作成作業の留意点	
3 計画書の作成	
第5章 登山計画の手続き	16
1 計画の承認	
2 登山計画審査会	
3 計画の変更	
4 関係機関への届出	
5 実施後の報告	
第6章 登山計画書の作成例	19
第7章 資料	33

第1章 安全な登山実施のための基本姿勢

高校生にとっての登山とは何か。

具体的な登山計画の作成について触れる前に、本章では、学校活動における登山の意義や目的について触れるとともに、登山が自然環境の中で行うスポーツ活動という性質上、その他のスポーツ活動と比べ身体・生命の危害が及ぶリスクが高く、これらのリスクについてももう一度確認することにより、引率者となる教員をはじめ、学校等の登山に携わる者に自覚を促す。

1 登山とは

一般的には、山頂を目指し山に登ることを登山と言うが、本県県立学校の教育活動（部活動を含む）においては、標高の高低を問わず、また、山頂を目指さなくとも、登山道（整備された遊歩道を除く。）等を歩くものを登山として定義する。

なお、山林での作業等に伴い山に登るものは登山に含めないが、調査研究等を目的として山に登る場合は登山に該当するものとして取り扱う。

また、高地ではあっても高低差のない高原、湿原等で木道等コースが十分に整備されているルートは登山としない。（例：戦場ヶ原及び小田代ヶ原内の遊歩道 など）

2 登山の意義・目的

登頂するという目標等を掲げ、日頃から体力を向上させるなどの努力を積み重ねるとともに、日頃から仲間たちと登山について話し、結束力を高めること等により、その結果、到達した際の達成感、克服感を得ること、また、さらに高い目標を設定し、主体的に自己研鑽していくといったことが登山の意義として挙げられる。

また、自然のすばらしさを直接体感し、興味・関心を持ち主体的に学ぶことなどにより、探究心を高めていくことなども、登山の意義として挙げられる。

加えて、本県高校生の教育活動における登山の実施に当たり重視すべきものは、登山活動を通じて、計画立案の重要性を学ぶほか、危機管理意識の向上、他のメンバーとの協力意識や協調性を醸成、さらには、チームワークの中で任せられた自分の取るべき行動について主体性を持って取り組むことなど、登山活動に取り組む意義や目的は広範かつ深い。

3 登山のリスク

登山は、ありのままの自然環境下において、山中の長い行程を上り下りを伴いながら歩く活動であり、体力の消耗が激しい活動である。また、足元が極めて不安定な場所で行う活動であることから、転滑落による怪我や最悪な事態としては命を失う可能性もあるリスクと背中合わせの活動と理解する必要がある。

加えて、事故等により中断を決断しても、下山するまでに様々な困難が伴うことが考えられる。

このほか、自然の中、かつ、天候の変化が激しい山間部での活動であるため、突然の降雨や雷雨等も発生しやすく、天候の急変に伴う体温の急激な変化や道を見誤ること等による遭難の危険性も常にはらんでいる活動である。

さらには、高地といった日常とは異なる環境での活動であるため、高山病をはじめとして、風邪や腹痛、その他の身体的故障が起きるリスクが伴う。

登山を実施する上では、こういったリスクを十分に認識し、適切な対策を講じる必要がある。

4 冬山登山、雪上活動訓練、冬季登山

(1) 冬山登山

冬季を中心に断続的な降雪等により雪が相当期間堆積する時期を積雪期と言うが、積雪期にある山においては、登頂を目指す登山ではなくとも、凍結、吹雪、転滑落、埋没、凍傷、低体温症等の可能性もあることから、主として積雪期の状態にある山への登山である冬山登山については、登頂を目指すか否かを問わず、本県県立学校においては、実施を認めないこととする。

(2) 雪上活動訓練

登山計画審査会の議論を踏まえて記載

(3) 冬季における登山

冬山登山及び雪上活動訓練については上記のとおりであるが、標高が低く、積雪期の状態にない山における登山はこれまでどおり冬の間であっても実施を認めることとする。

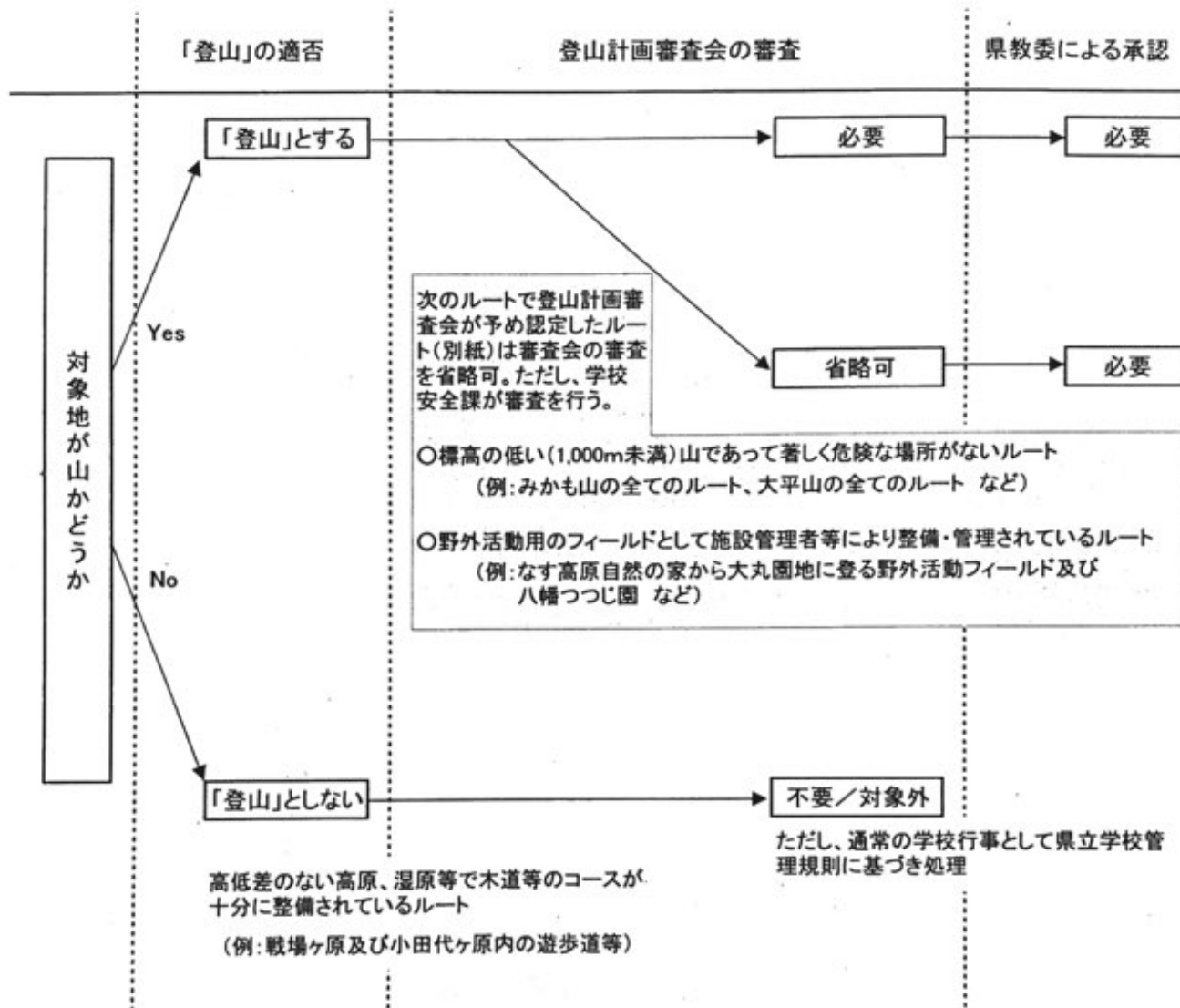
なお、積雪期の状態にない山については、別途、教育委員会が登山計画審査会と協議の上、指示する。

ただし、積雪期の状態にない低山ではあっても、降雪があった場合は登山を中止すること。

5 登山の実施に向けて

上記のことを踏まえ、学校活動における登山の実施に当たっては、常に、登山を通じて得られる成果と登山のリスクを衡量していく必要がある。また、引率者を含めて、学校は、登山を計画する際や山行中においても「登頂を第一の目的とはせず、安全を第一に」を肝に銘じて取り組む必要がある。

【判定フロー】



第2章 登山における引率者

高校生は、登山等に関する知識や体力も発達の上であり、成熟した大人ではないことから、高校生の登山において、登山が安全に実施され成果を残す上では、引率者（教員）が果たす役割は極めて大きい。

この章では、引率者がこの職責を果たすことができるよう、登山計画を立案・作成する前にもう一度引率者の意義や役目について確認する。

1 引率者の意義と役目

登山の目的を達成することはもとより、自然の中で行うスポーツであるが故のあらゆるリスクから生徒の身体・生命の安全を守る必要があることから、部活動登山や学校行事における集団登山は、学校及び教員の責任において行われる必要がある。

また、全ての登山の計画立案、実施、反省等の各段階において、引率者は生徒に対し指導を行うものとするほか、年間計画を立て、学校長や保護者の理解を得ながら、学校教育の一環として登山を実施し、生徒の力量を計画的、段階的、組織的に高めていくものとする。

《 引率者が行うこと 》

○山行前

- ・登山の企画立案（生徒とともに）
- ・登山に必要な知識、技術の習得指導
- ・参加生徒の保護者に登山活動の概要を知らせるとともに、参加の承諾を得る。
- ・参加生徒の健康状態の把握
- ・登山計画書の作成（生徒とともに）し、校長の承認を得る。
- ・登山計画書を県教委その他関係機関に届け出て、必要に応じ承認を得る。

○山行中

- ・生徒の安全確保
生徒の健康状況、危険箇所、天候の変化等に細心の注意を払う。
安全登山の実施を最大の目的とし、勇気ある撤退を常に意識する。
- ・承認を受けた計画内容の忠実な実行

○山行後

- ・下山後、校長等への速やかな報告
- ・成果を最大限にするため、生徒とともに反省会を開く。
- ・報告を県教委に提出する。

2 引率者の要件

登山の実施については、部活動であれ、学校行事であれ、学校の管理下において実施するものであることから、当該学校の教員が引率者となり、出発から帰校するまで学校として責任を負うものである。

また、登山は、急激な天候の変化に代表されるような、日常生活とは異なる環境下で、適確に対応していくことが求められ、登山に特有の知識や経験を必要とする。本県高校生等の登山活動中の安全を確保するため、引率者には、少なくとも一人は、登山指導の経験が5年以上あり、かつ、公益財団法人日本スポーツ協会認定の指導員資格を有するか、または、国立登山研修所等で実施される県が指定した研修等に参加した者を置くことを必須とする。

上記に該当する者がいない場合、要件を満たす他校の教員を引率者に加えるか、または、要件を満たす引率者が引率する他校の登山と合同により実施するか、もしくは下記4のアドバイザーを帯同させることで、要件を満たす者を引率者として置いたものとみなす。

3 引率者の人数

登山は、山の中で活動である特殊性から多人数を一人の引率者が指導監督するには限界があることから、生徒10名につき1名以上を引率者として置くこととする。

ただし、学校行事における集団登山について、この基準によりがたい場合は、登山ルート等を勘案した上で登山計画審査会が了承した場合はこの限りではない。

また、1パーティにつき2名以上の引率者を置くことを必須とする。

引率者それぞれの役割分担を明らかにし、指揮系統を明確にしておくことが、山行中、特に不測の事態に遭遇した際に適確な対応を取る上で必要なことから、引率者においては、必ず引率責任者を置くこととし、他校の教員を引率者とする場合でも責任者は必ず自校の教員とすること。

4 アドバイザー

安全登山の実施に向けて、県内外を問わず、登山を実施する山域やコース、引率者の力量、参加生徒数等に応じて、登山の経歴が豊富にあり、登山の対象とする山に精通した専門家をアドバイザーとして帯同するものとする。具体的には登山計画審査会において、帯同の可否を審査することとする。

なお、帯同を推奨をするコースについて別途定める。

第3章 安全な登山の実施に向けた登山計画の立案

この章では、具体的な登山計画書の作成に向けて、計画の立案をどのような観点で進めるべきか、また、どのようなプロセスで進めるべきかを適切に理解するためのポイントを挙げる。

1 計画立案の重要性

登山は、綿密な計画の作成と周到な準備からスタートする。

登山の計画と準備は、急変する自然の中で行う厳しい活動であることを念頭に置いて行う必要がある。登山として歩くコースの把握はもとより、危険箇所の把握や、天候の変化・事故等による緊急時の対応策を含めて想定し、計画することが、非常時の際にもパニックとなることなく、冷静な対応を促し、結果として事故が起きた場合でも二次被害の防止につながる。

「登山の出発時には、登山の半分が終わっている」と言われるほどであり、計画と準備には十分に時間をかけて作成する必要がある。

2 立案時の留意点

登山を成果あるものとするためには、参加者全員が目的のほか、登山の行程や危険箇所、非常時の対応策等について共有する必要がある。また、適切な役割分担の下、実施される必要があることから、立案時から参加者全員で話し合い計画を作成することが大切である。

また、年間を見通して登山の計画を立てることで、個々の登山の意義や目的等を明確にしておく必要がある。

3 登山の組織体制

登山においては、参加する者を取りまとめ、適確な状況判断と指示を行うリーダーの存在が必要である。

学校活動における登山の真のリーダーは引率者となる教員ではあるが、生徒の主体性・責任感等を育成する観点からも、参加する生徒の中からリーダーを決め、日頃から仲間たちとの結束力を高めていくなど、チームワークや主体的な活動を促していくものとする。

また、学校活動における登山は、山行する者だけで実施するものではなく、校長をはじめとした学校関係者が適切なサポート体制を整えることにより、出発から帰校に至るまで安全な登山を実施できることとなる。そのため、校長等の管理者を中心に非常時の連絡体制等も含め、しっかりと組織体制を講じておく必要がある。

4 山行地の選定

山行地は、参加する生徒の心身の発達、体力・技術の程度、これまでの山行等の経験の内容、経費等を考慮し、目的の達成に適したものを選定することが重要だが、特に安全面には十分配慮する必要がある。

なお、山行ルートは、一般的な装備により実施可能なルート（一般ルート）とし、ハーケンやハンマー等を当然必要とするような岩登りや沢登り等を伴う登山は実施を認めない。また、北アルプスの大キレットほか、不帰キレット、飯豊山の石転び雪渓、西穂高から前穂高にかけての稜線といった特に難易度の高いルートについては山行を認めていないので注意すること。

5 事前準備・事前指導

安全に登山を実施するため、日頃から次の事項について具体的な対策や準備を講じるとともに、引率者は生徒の指導に当たること。また、具体的な山行の実施に向けては、管理者等とも相談しながら非常事態への対応等について体制を整えておく必要がある。

- ・ 日常の健康管理及び健康状態の把握
- ・ 身体・体力面でのトレーニングによる基礎体力の養成
- ・ 登山知識（山岳全般に関する基礎的知識、天気図読図等）の習得や登山用具の取扱いの習熟
- ・ 非常事態への対応（荒天対策、怪我や病気への対応方法、救急法、連絡方法等）の確認
- ・ 山行地に関する情報収集や登山計画の作成

6 安全対策

(1) 荒天対策

急変する山の天候について、山行前及び山行中にしっかり把握する。

降雨や落雷等の荒天時にどのような対応を取るか（中止、延期、あるいは山行中であれば途中帰還等）、また、その判断基準等を事前に検討し、計画として明記しておく。

特に途中帰還の場合、どのようなルートを用いて帰還するのか、予め想定し、計画として立てておく必要がある。

(2) 事故防止対策

生徒を引率する上で、登山コース等について山行直前に最新の情報を把握しておくことは、危険箇所等を把握し、事故を回避する上で非常に有効である。事前の下見は上記の観点からも有効である。

登山は日常生活とは異なる環境下において、体力を使う活動であるだけでなく、急激な天候の変化等により身体的にも負担が大きいことから、参加する生徒の健康状況の把握及び管理は事故を起こすことなく登山を実施する上で非常に重要である。

このため、参加する生徒の事前の健康状況を把握することはもとより、山行直前（当日）の健康状況をしっかり把握し、不良の場合は参加させないことが重要である。

山行直前（当日）の荒天やその他不測の事態等により、登山の日程や行程等の変更については、計画に沿った変更であるとしても、その判断は冷静かつ的確に行う必要があり、引率者は

学校管理者に相談の上、計画の変更を行うものとする。そのため、計画立案時に際しては、計画変更時の相談先・報告先を明確にし、双方が迅速な対応を取れるようにしておくことが必要である。

登山は、学校活動として学校の管理下に実施される活動であることから、登山が天候不良等の影響を受けず、計画どおり進められた場合でも、その実施状況については、適宜、学校（管理者）に連絡を取るとともに、必要に応じ、学校からの指示を受けることが登山を最後まで安全に実施する上で大切である。

(3) 救急対策

事故等が発生した場合は、その状況を正確に把握するとともに、躊躇することなく、警察、消防等への救助要請を行うこと。また、止血等の応急対応に努めること。そのためには、事前に応急措置の知識を身に付けておくことも重要である。

また、体調不良や行動継続が可能な程度の怪我の場合は、体調等を十分に見極めた上で、停滞もしくは下山を判断し、下山した場合は直ちにあらかじめ確認しておいた医療機関等において必要な措置を受けること。このため、最寄りの医療機関等について、事前の連絡先や搬送方法を確認しておくことが計画を立案する際には重要である。

なお、山中において、対応に迷った場合には、消防等に電話で相談することも検討すること。

さらに、学校や学校を通じて生徒保護者への迅速かつ適切な状況の報告が救急時には求められ、そのための現地から学校、保護者への連絡体制（連絡網）を予め整えておくことが大切である。

山間部は日常の生活圏とは異なり、携帯電話等の通信機器がどこでも使用可能とは限らず、救急時の連絡を確実にを行うためには、予めどのエリアが通信不可の範囲なのか、また、どこまで行けば通信可能となるかを予め把握しておくことが有効となってくる。

事故による怪我等の負傷を負った場合の事後の適切な対応を確保するため、予め保険に加入しておくことが有効となってくる。

7 不測・緊急の事態への対応

事故等の不測・緊急時には、昼夜を問わず、学校及び保護者への連絡を取り、事態の把握や共有を図る必要がある。そのための連絡体制を整えておく必要がある。

また一部救急時の対応と重なるが、最寄りの医療機関や警察への連絡を取るための連絡先も把握しておく必要がある。

8 保護者への説明及び承諾

参加生徒の保護者に対し、実施しようとする登山の計画内容を示した上で、参加についての承諾を得る必要がある。また、緊急時の連絡先等を学校としても把握しておく必要がある。

（保護者へは県教育委員会に承認を受けた登山計画書を渡しておくこと。）

《 登山計画の立案～実行～下山後の手続きまでのフロー 》

山行目的の設定と山行地の選定



実施時期の決定



参加者の決定



行動計画の検討、
山行地等の情報



登山計画書の作成



承認申請・審査・承認



保護者への説明・承諾



関係機関等への届出



出発前の最終点検



入山・山行・下山



下山直後の報告



登山等報告

参加者の経験・技量（以下、「力量等」という）を踏まえ山行目的を明確にし、力量等に応じた山行地を選定する。また、年間計画に基づく山行となっているかも確認する。目的や山行地の特徴等も勘案しながら実施時期を決定する。

参加者の力量等も勘案しながら参加者を決定する。参加者の力量や人数によっては山行地も変わってくることに留意する。

日程、ルート（エスケープルートを含む）、事故防止対策等について、引率者と生徒が一緒になって検討を行う。ルートや幕営地（宿泊地）の状況を確認する。引率者は可能な限り下見を行う。

ガイドラインを参考の上、登山計画書を作成する。

県教育委員会から指示された期日までの登山計画の承認申請を行う。承認を受けた計画について変更等が生じた場合は速やかに報告する。

承認を受けた登山計画書の内容について保護者の理解を得て登山参加の承諾を得る。※状況によっては承認前でも可

登山計画書をコンパスにて提出する。

学校（管理者）との連絡方法を確認する。当日、生徒の健康状況の確認を行うとともに、体調不良者は山行させない。山行地の気象等の最新情報を収集する。

登山計画書を遵守の上、山行を実施する。

不測の事態が発生した際には適宜学校（管理者）とも相談し対応する。

下山後速やかに電話・ファクシミリ等で県教育委員会に報告する。報告の際にはヒヤリハット等についても簡単に触れる。所定の様式で県教育委員会に報告（提出）する。

第4章 登山計画書の作成

この章では、第3章で掲げた計画立案の考え方を基に、具体的な登山計画書の作成について、主に記載すべき事項を中心にまとめる。

なお、ここで掲げる事項は計画書に記載すべき必要最小限の事項等をまとめたものであり、個々の登山に応じて、より一層の安全対策等を講じるべきであり、講じる安全対策等については計画書にも記載することとする。

1 計画書作成の意義

登山計画の作成は登山技術の第一歩であり、最も大切な要素とされている。

引率者だけでなく、生徒も積極的に計画書の作成に加わることで、山行する行程の把握はもちろんのこと、危険箇所等の認識やその他の不測の事態に陥った場合でも、冷静な対応を取ることが期待でき、事故等が発生するリスクを可能な限り軽減することにつながる。

また、作成した登山計画書を有識経験者で構成する登山計画審査会に諮り、安全対策面のチェックや必要に応じた指摘や助言を受け、計画の改善を図ることにより、より安全な登山の実施が期待できる。さらには、作成された登山計画書をコンパスを通じて地元警察等と共有するとともに、学校、や保護者とも共有することにより、非常時の迅速な対応が可能となる。

これらのことを、特に引率者は念頭に置いて、計画する山行により即し、かつ具体的な登山計画書を作成することとする。

2 作成作業の留意点

登山を成果あるものとするためには、参加者が目的のほか、登山の行程や危険箇所、非常時の対応策等について共有する必要がある。また、適切な役割分担の下、実施される必要があることから、立案時から、参加者全員で話し合い計画を立案することが大切である。

そのため、本県の県立学校が登山を計画する場合、登山計画書の作成は引率する教員と生徒がともに作成し、登山の目的はもとより、行程や危険箇所の把握、事故防止対策等についても危機管理の習得の一環として作業に携わるものとする。

3 計画書の作成

(1) 行事名等

- ・目的等も含め具体的に分かりやすい行事名とすること。
- ・また、実施主体（部活動として実施するのか、学校行事として実施するのか）を明記すること。

(2) 目 的

- ・登山の実施により何を目的とするかを具体的、かつ、明確に記載すること。
- ・なお、当該目的については、参加する生徒全員の理解を徹底すること。

(3) 場 所

- ・山行を実施する主な山の名称、都道府県都市町村名を記載すること。
- ・なお、参加する生徒の心身の発達、体力・技術の程度、これまでの山行等の経験の内容、経費等を考慮し、目的の達成に適した山を選定するものとする。

(4) 期日（日数）

- ・日数の増加に伴い必要な装備や食料等の量が増加するとともに、日常生活とは異なる環境下での複数日にわたる活動は生徒への身体的に過度な負担をかけることとなる。このような状況下での活動は、生徒の体調不良や判断力の低下を引き起こし、事故も起こしやすくなる。こういった事態を防ぐため、日程は宿泊を伴うものは2泊3を標準に、最大でも予備日を含め5泊6日までとする。

(5) 日程コース

- ・(3)と共通するが、参加する生徒の心身の発達、体力・技術の程度、これまでの山行等の経験の内容、経費等を考慮し、目的の達成に適した山、日程コースを選定するものとする。
- ・想定する日数内で行程を安全に歩けるコースとするが、設定に当たっては、参加生徒のうち、登山経験量や体力等において最も低い生徒を基準として設定するとともに、次の点を遵守する。
 - ①各日とも全装行動においては行動時間が8時間を超えないこと。
 - ②日没以降の山行は実施を認めないことから、宿泊地には遅くとも日没〇時間前には到着すること。そのため、出発時刻は少しでも早く設定することが望ましい。
 - ③悪天候や事故等の不測の事態に備え、事前に安全な避難場所・エスケープルート等を確認の上、設定すること。
 - ④夏季の登山は落雷の危険性が高まることから、落雷が発生しやすい午後の時間帯の山行を極力避けるとともに、午前中に山頂を通過する計画とすること。
 - ⑤各行程のアプローチの手段や行動種別（全装行動、サブ行動）を明記すること。
 - ⑥通過地点等はできるだけ具体的に記載するとともに、各地点の通過予定時刻を記載すること。また、山行中の地点については、可能な限り標高を記載すること。
 - ⑦予備日は悪天候等により山行が実施できない場合を想定し確保するもので、日程に組み入れて設定する。したがって、山行が計画どおり進んでいる限り、予備日を使うことはなく、まして予備日を使って計画にない行動はしないこと。なお、日帰りのコースや停滞等の可能性が極めて低い簡易なコースで予備日をつける必要がないことが明らかな場合は必ずしも設定する必要はない。

(6) 引率者

- ・引率者（教員※具体的な要件等については、第2章を参照）について、氏名、年齢、血液型（可能な範囲で）、職名、教科、顧問年数、性別、指導員資格の有無、登山関係講習会の有無（有の場合、具体的講習名）、過去の登山歴、登山経験年数、住所、本人連絡先、家族の連絡先を記載すること。
- ・引率者数は、生徒数10名につき1名以上を置くことし、1パーティーに対し2名以上の引率者を置くこと。ただし、学校行事における集団登山について、この基準によりがたい場合は、登山ルート等を勘案した上で登山計画審査会が了承した場合はこの限りではない。
- ・アドバイザーについては、引率者欄にアドバイザーであることが分かる旨、備考欄に記載すること。

(7) 参加者（生徒）

- ・参加する生徒について、氏名、学年（組）、健康状況、血液型（可能な範囲で）、性別、過去の主な山行、住所、保護者の連絡先を記載すること。
特に、健康状況は計画書を作成する時点はもちろんのこと、山行直近や当日直前にも確認し、健康不良の場合は山行には参加させないこと。

(8) 装備計画

- ・共同装備及び個人装備ともに行程に即した内容とするとともに、過不足なく準備すること。
- ・全装行動及びサブ行動を併用する場合は、装備も使い分けに十分留意すること。
- ・ヘッドランプや携帯電話等の電気機器については予備電池、予備バッテリー等も装備に含めること。
- ・通信機器は山行実施地に適した通信機器を携行すること。

(9) 食料計画

- ・予備日も含め、全日程の食料を十分確保し、各日、朝昼晩ごとの計画を記載すること。
なお、予備食は予備日の設定に応じて予備日分の食料計画を記載すること。
- ・非常食は日帰りであっても必ず一人一人が準備することとし、記載すること。
なお、非常食はその性質上、火や水を使用しなくとも摂取でき、かつ、消化吸收の良いものとする。

(10) 事前トレーニング計画

- ・安全に登山を実施するための、事前のトレーニングについて具体的内容や計画を記載すること。
- ・必ずしも身体・体力面でのトレーニングに限るものではなく、安全対策面（荒天対策、怪我や高山特有の病気、症状の対処方法、緊急時の対処に関するシミュレーション等）でのトレーニングや技術的（装備の使用訓練、天気図読図等）あるいは登山を行う山城研究等が挙げられ、実施予定のものについて記載すること。

(11) 事故防止及び救急対策

荒天対策や事故防止、救急対策等について、取り得る準備や対応策を具体的に明記すること。当然のことではあるが、実際に行動すること（すべきこと）をしっかりと考え、計画書としてきちんと記載すること。

① 荒天対策

- ・対象とする山の天候等について、山行前及び山行中にしっかり把握すること。
また、具体的に何の情報なのか（天気、降水量、落雷予防等）を明確にし、これらの情報をどのような媒体、手段で入手するかも含めて記載すること。
- ・雨天や雷雨等の荒天時にどのような対応を取るか（中止、延期、あるいは山行中であれば停滞、途中帰還等）、また、その判断基準等を事前に検討し、計画として明記しておく。
- ・特に途中帰還の場合、どのようなルート（エスケープルート）を用いて帰還するのか、予め想定し、計画として立てておく必要がある。
- ・荒天時の避難場所（避難小屋等）の所在を把握し、計画書に名称等を記載しておくこと（概念図には所在地を記載しておくこと）。
- ・その他、荒天対策として行う具体策を計画書に記載すること。

② 事故防止対策

- ・登山コース等の状況について、山行直前に最新の情報を把握しておくこと。
また、具体的にはどのような情報（通行止め箇所、落石等の危険箇所など）が有効かを想定し、これらの情報をどのような媒体、手段で入手するかも含めて記載すること。
なお、引率者は可能な限り実施すること。また、下見を実施する場合は、その旨、計画書に記載すること。
- ・参加する生徒の事前の健康状況を把握することはもとより、山行直前（当日）の健康状況をしっかり把握し、不良の場合は参加させないことについて、明記すること。
- ・悪天候やその他不測の事態により計画変更を行う場合の相談先・報告先を記載すること。
- ・登山の実施状況について、適宜、学校（管理者）へ報告することとし、具体的に連絡先（所属、職名等）やどの程度の頻度で連絡するかなどを記載すること。
- ・その他、事故防止対策として行う具体策を計画書に記載すること。

③ 救急対策

- ・事故や体調不良者等が発生した場合の対処方法（例：歩ける場合は登山を中止するとともに速やかに下山する等）想定し、具体的に記載すること。
- ・搬送する最寄りの医療機関や管理小屋の連絡先を明記すること。また、緊急時連絡フローにも明記すること。
- ・現地から、学校（管理者）はもとより、学校を通じて保護者までの連絡体制（連絡網、緊急時連絡フロー）を整備しておくこと。
- ・携行する携帯電話等の通信機器の通信可能エリアを把握するとともに、具体的に当該エリアを示す図面を準備すること。
- ・事故や怪我に備えるための、加入予定の保険を取り扱う会社名及び具体的な補償内容を記載すること。

(12) 緊急時の連絡先

- ・現地から、学校（管理者）はもとより、学校を通じて保護者までの連絡体制（連絡網、緊急時連絡フロー）を整備しておくこと。
- ・学校（管理者）の連絡先は、昼夜を問わずに連絡可能な体制を講じること。
- ・最寄りの医療機関や警察への連絡先も記載しておくこと。

(13) 概念図

- ・等高線が記載された地図を用いて、山行予定のルートを分かりやすく図示すること。
なお、(5) で記載した通過地点等についても可能な限り図上に示すこと。
- ・(11) で記載した危険箇所等についても可能な限り図上に示すこと。

(14) 保護者への周知及び承諾

- ・参加生徒の保護者に対し、登山計画の内容を示した上で、参加についての承諾を得ることし、その旨計画書に記載すること（保護者宛通知及び承諾についての文書案を計画書に添付することが望ましい）。

(参考) 山行(山・宿泊の有無等)の違いによる装備の目安

共同装備

項目	品名	右記以外の通常の登山			標高が低い山や野外活動フィールド等の特定ルート		
		幕営	小屋泊	サブ日帰り行動	幕営	小屋泊	サブ日帰り行動
幕営用具	テント(ペグを含む)	○			○		
	テントマット	*			*		
	ツェルト		○	○		*	*
	ランタン	○	*		○	*	
炊事用具	コッヘル	○	○	*	○	○	*
	しゃもじ・おたま	*	*	*	*	*	*
	たわし	○	○	*	○	○	*
	まな板セット	○	○	*	○	○	*
	ガスバーナー	○	*	*	○	*	*
	ガスボンベ	○	*	*	○	*	*
	水用ポリタンク	○	*	*	○	*	*
その他	ラジオ	○	○	○	○	○	○
	天気図用紙	○	○	○	○	○	○
	医薬品	○	○	○	○	○	○
	修理具一式	○	○	○	○	○	○
	トランシーバー(予備電池を含む)	○	○	○	○	○	○
	衛星携帯電話(予備電池を含む)	*	*	*	*	*	*
	カメラ	*	*	*	*	*	*
	ザイル	*	*	*	*	*	*
	ロール紙	○	○	○	○	○	○
	ビニール袋	○	○	○	○	○	○

個人装備

項目	品名	右記以外の通常の登山			標高が低い山や野外活動フィールド等の特定ルート			
		幕営	小屋泊	サブ日帰り行動	幕営	小屋泊	サブ日帰り行動	
着用装備	上着	○	○	○	*	*	*	
	ズボン	○	○	○	○	○	○	
	カッターシャツ	○	○	○	*	*	*	
	セーター	*	*	*	*	*	*	
	下着	○	○	○	○	○	○	
	登山靴	○	○	○	*	*	*	
	靴下	○	○	○	○	○	○	
	帽子	○	○	○	○	○	○	
	防風・防水・防寒用上着	*	*	*	*	*	*	
	雨具	○	○	○	○	○	○	
	メインザック	○	○		○	○		
	サブザック	*	*	○	*	*	○	
	軍手	○	○	○	○	○	○	
	毛手袋	*	*	*	*	*	*	
	ヘッドランプ(予備電池を含む)	○	○	○	*	*	*	
	スパッツ	*	*	*	*	*	*	
	サングラス	*	*	*	*	*	*	
	携行装備	シュラフ	○	*		○	*	
		マット	*	*		*	*	
		水筒・テルモス	○	○	○	○	○	○
食器		○	○	*	○	○	*	
はし		○	○	*	○	○	*	
手ぬぐい・タオル		○	○	○	○	○	○	
洗面具一式		○	○		○	○		
携帯電話(予備電池を含む)		*	*	*	*	*	*	
ライター又はマッチ		○	*	*	○	*	*	
ナイフ		○	○	○	*	*	*	
時計		○	○	○	○	○	○	
地図		○	○	○	○	○	○	
コンパス		○	○	○	○	○	○	
筆記具		○	○	○	○	○	○	
計画書		○	○	○	○	○	○	
健康保険証		○	○	○	○	○	○	
非常食		○	○	○	○	○	○	
靴ひも		○	○	○	*	*	*	
細引き		○	○	○	*	*	*	
チリ紙		○	○	○	○	○	○	
個人医薬品	○	○	○	○	○	○		
ピッケル	*	*	*					
ホイッスル	○	○	○	○	○	○		

○:必ず携行する装備

*:山行の目的、形態、内容等に応じて携行する装備

第5章 登山計画の手続き

この章では、登山計画を学校以外の第三者の視点でチェックし、安全対策等を一層しっかり講じるとともに、地元警察、山岳協議会等の関係機関への周知を徹底するなど、登山計画を作成した後、実際に登山を実施するまでの手続をはじめ、実施後に行うことまでの一連の必要な手続きについて触れる。

1 計画の承認

(1) 登山の位置付け

各学校が実施する登山（部活動登山を含む）は、県立学校管理規則第9条において定める学校行事であり、その実施に当たっては、事前に、登山の目的をはじめ、安全対策等が適切に講じられているか否かの確認を経て、県教育委員会の承認を受ける必要がある。

計画内容の適正等については、原則として、登山計画審査会の審査結果を踏まえて判断するものとする。

(2) 承認申請

登山計画の承認申請については、別途県教育委員会が指示する日までに提出するものとする。

2 登山計画審査会

(1) 登山計画の審査

県教育委員会は、県立学校長から提出された登山計画について、行程や安全対策、緊急時の対応等、計画の内容が適切か否かを専門的見地から確認するため、有識者等で構成する登山計画審査会の審査にかけるものとする。

(2) 対象

第1章の1で定義される「登山」については、登山計画審査会による審査を要するものとする。

ただし、次の各項目を満たす山行ルートのうち、登山計画審査会が承認したルートについては、登山計画審査会による審査を省略することができるものとする。

① 標高の低い（1,000m未満）山であって著しく危険な場所がないルート

（例：みかも山の全てのルート、大平山の全てのルート など）

② 野外活動用のフィールドとして施設管理者等により整備・管理されているルート

（例：なす高原自然の家から大丸園地に登る野外活動フィールド及び八幡つつじ園 など）

※ 登山として取り扱うものは、登山計画審査会の審査を要しないものであっても、学校安全課による審査を経て、県教委の承認を必要とする。

また、登山として取り扱わないものであっても、泊を伴う場合は県立学校管理規則に基づき学校行事としての届出の手続きは必要となる。

(3) 審査結果等

①区分

審査の結果、次の区分のとおりとする。

ア 特に問題なし

計画書の内容が適正と判断されるもの。

イ 意見を付す

登山の実施については基本的に問題はないものの、実施に当たり軽微な計画の修正等を要するもの。

ウ 再提出を要する

安全対策面や緊急時の対応、その他計画の実施に当たり、計画内容が十分に練られておらず、このままでは登山の実施を認められないことから、計画内容を訂正・修正の上、再度計画書の提出を要するもの。

②再審査

登山計画の再提出があった場合は、県教育委員会は再度、登山計画審査会の審査にかけるものとする。

3 計画の変更等

承認を受けた計画について、山行する行程や実施時期の大幅な変更（2か月以上または季節が異なる等）等、主要な内容の変更を行う場合は県教育委員会に計画書を提出の上、再度登山計画審査会の審査を経て県教育委員会の承認を得ること。

なお、承認を受けた行程は変わらず実施する日程の変更（2か月未満かつ季節が異ならない場合に限り）等軽微な変更の場合は登山計画審査会の審査は要しない。ただし、県教育委員会の承認を得ること。

また、悪天候その他の事情により実施しないち判断した場合には登山計画を中止する旨の報告を行うこと。

4 関係機関への届出

事故や遭難等の事態に陥った際に生徒等の身体・生命を守るためには、一刻も早い警察や山岳協議会等による救助等が有効である。

このため、教育委員会の承認を受けた登山計画書の内容を公益社団法人日本山岳ガイド協会が運営する登山届受理システム「コンパス」にて登録し、計画内容について警察等と共有しておく。

5 実施後の報告

(1) 下山報告

下山（学校への帰校・解散等）後は、県教育委員会に報告（電話連絡・ファクシミリ等も可）するものとする。また、コンパスにも登録すること。

(2) 報告書の提出

実施後、登山参加者全員で反省会を開き、目的の達成度やヒヤリハット事例等を全員で共有するとともに、記録を整理し、登山報告書として県教育委員会に提出するものとする。

第6章 登山計画書の作成例

栃木県教育委員会教育長 様

栃木県立 〇〇〇〇学校長

登山等の承認申請について

このことについて、下記の計画により実施したいので、承認くださるよう願います。

記

1 行事等名 平成〇〇年度〇〇合宿登山(部活動)

※学校行事の例
〔平成〇〇年度第3学年遠足登山(学校行事)〕

2 目的 登山を通じて山岳部員としての基礎技術の習得と体力の向上を図り、自然に親しむ態度と望ましい人間関係を養う。




※学校行事の例
〔大自然の中で集団生活を営むことによって、自然を愛し、集団行動のルールを体得し、互いに助け合い、たくましく生きる力を身につける。〕

3 場所 〇〇山(△△県□□市、▽▽県◇◇町)

4 期日 平成〇〇年7月25日(木)～7月28日(日)
3泊4日(予備日を含む)

5 日程コース

日程	月/日	主な行動コース、予定時刻、利用交通機関、宿泊地(幕営、山小屋の別)
第一日目	7/25 (木)	<p>○○高校 ≡ ◇◇IC ≡ ▽▽IC ≡ ○○駅 5:00 借り上げバス 5:10 10:00 11:00</p> <p>—— ○○平 —— ○○ —— ◇◇キャンプ場(幕営) 11:30 路線バス 12:30 13:30</p>
第二日目	7/26 (金)	<p>◇◇キャンプ場(幕営) ○○○○ ○○小舎 ○○分岐 6:00 6:30 8:00 8:40</p> <p>..... ○○岳 ○○山 △△山 ○○分岐 9:50 10:40 11:00 12:20</p> <p>..... △△山荘 ◇◇キャンプ場(幕営) 13:00 14:00</p>
第三日目	7/27 (土)	<p>◇◇キャンプ場 ○○ターミナル ≡ ○○○○ 7:00 8:00/8:15 バス 8:25/8:50</p> <p>—— ○○○○ —— ○○○○ ≡ ○○高校 9:15 9:30/11:35 バス 15:30</p>
第四日目	7/28 (日)	予 備 日
第五日目	/	
第六日目	/	

- 〔付記〕 (1) 日程は2泊3日を標準に、長くとも5泊6日(予備日を含む)を限度とする。
 (2)  電車、 車、 全装行動、..... サブ行動で記入。

- 6 引率者、参加生徒
別添参加者一覧のとおり

7 装備計画 (必要なものについて、品名や数量、備考欄に記入)

(1) 全装行動

① 共同装備

項目	品名	数量	備考	項目	品名	数量	備考	項目	品名	数量	備考
幕 営 用 具	テント(バグ含む)	4		炊 事 用 具	コッヘル	4		そ の 他	ラジオ	2	
	テントマット	4			しゃもじ・おたま	4			天気図用紙	8	
	ツェルト	4			たわし	2			医薬品	2	
	ランタン	4			まな板セット	2			修理具一式	2	
				ガスバーナー	4		トランシーバー	4			
				ガスボンベ	10		予備電池	4			
				水用ポリタンク	2		衛星携帯電話	1			
							予備電池	1			
							カメラ	2			
							ザイル	1			
							ロール紙	5			
							ビニール袋	5			

※その他、山行の目的や携帯、内容等に応じ必要な装備を記入すること。

② 個人装備

項目	品名	数量	備考	項目	品名	数量	備考	項目	品名	数量	備考
着 用 装 備	上着	1		携 行 装 備	シュラフ	1		携 行 装 備	細引き	1	
	ズボン	2			マット	1			チリ紙	2	
	カッターシャツ	2			水筒・テルモス	1			個人医薬品	1	
	セーター				食器	1			ビッケル		
	下着	3			はし	1			ホイッスル	1	
	登山靴	1			手ぬぐい・タオル	3					
	靴下	3			洗面具一式	1					
	帽子	1			携帯電話	1					
	防風・防水・防寒用上着	1			予備電池	1					
	雨具	1			ライター又は						
	メインザック	1			マッチ	1					
	サブザック	1			ナイフ	1					
	軍手	1			時計	1					
	毛手袋	1			地図	1					
	ヘッドランプ	1			コンパス	1					
	予備電池	1			筆記具	1					
スパッツ			計画書	1							
サングラス			健康保険証	1							
			靴ひも	1							

※その他、山行の目的や携帯、内容等に応じ必要な装備を記入すること。

(2) サブ行動・日帰り

①共同装備

項目	品名	数量	備考	項目	品名	数量	備考	項目	品名	数量	備考
幕 営 用 具	ツェルト	4		炊 事 用 具	コッヘル			そ の 他	ラジオ	2	
					しゃもじ・おたま				天気図用紙	4	
					たわし				医薬品	1	
					まな板セット				修理具一式	1	
					ガスバーナー				トランシーバー	4	
					ガスボンベ				予備電池	4	
					水用ポリタンク				衛星携帯電話	1	
									予備電池	1	
									カメラ	2	
									ザイル		
						ロール紙	2				
						ビニール袋	2				

※その他、山行の目的や携帯、内容等に応じ必要な装備を記入すること。

②個人装備

項目	品名	数量	備考	項目	品名	数量	備考	項目	品名	数量	備考
着 用 装 備	上着	1		携 行 装 備	水筒・テルモス	1		携 行 装 備	個人医薬品	1	
	ズボン	1			食器				ピックル		
	カッターシャツ	1			はし				ホイッスル	1	
	セーター				手ぬぐい・タオル	2					
	下着	1			携帯電話	1					
	登山靴	1			予備電池	1					
	靴下	1			ライター又は	1					
	帽子	1			マッチ						
	防風・防水・防	1			ナイフ	1					
	寒用上着				時計	1					
	雨具	1			地図	1					
	サブザック	1			コンパス	1					
	軍手	1			筆記具	1					
	毛手袋				計画書	1					
	ヘッドランプ	1			健康保険証	1					
	予備電池	1			靴ひも	1					
	スパッツ				細引き	1					
	サングラス				チリ紙	1					

※その他、山行の目的や携帯、内容等に応じ必要な装備を記入すること。

8 食糧計画

項目 月/日	朝 食		昼 食 ・ 行 動 食		夕 食	
	品 名	数 量	品 名	数 量	品 名	数 量
7/25 (木)			クリームパン オレンジ クッキー	○個 ○個 適量	米飯 ビビンパライスの素 海藻サラダ	○合 ○人分 ○袋
7/26 (金)	うどん 油揚げ 乾燥ネギ	○玉 ○枚 適量	ロールパン チーズ、火腿、マスタード オレンジ ゼリー、チョコレート、飴	○個 適量 ○個 適量	スパゲティー パスタ ソース わかめスープ	○g ○人分 ○袋
7/27 (土)	パン コッペパン ソーセージ マスタード たまごスープ	○個 ○個 ○本 ○袋	ロールパン ジャム、ピーナツバター グレープフルーツ ゼリー、チョコレート、飴	○個 ○本 ○個 適量		
/						
/						
予 備 日	インスタントラーメン 魚肉ソーセージ 乾燥わかめ	○袋 ○本 適量	フランスパン コーン入りマヨネーズ ドライフルーツ(アップル) ゼリー、チョコレート、飴	○本 ○本 ○袋 適量	うどん 乾麺 めんつゆ イワシの缶詰	○g ○本 ○個
非常食 一人 当たり	品 名		数 量			
	カロリーメイト 羊羹 板チョコレート		2箱 1本 2枚			

10 事前トレーニングの計画・内容

- ・放課後のトレーニング（ランニング、階段を用いた歩荷）による基礎体力の増強
- ・週1回の座学（気象、地形、医療、栄養等について）の実施
- ・山域研究（概念図、行程図、断面図、コース概要、動植物、地史等）
- ・安全対策（怪我への対処法、荒天時の対策、緊急時の連絡シミュレーション）の学習
- ・〇〇山での山行トレーニングでの読図、樹林帯、岩場の歩行訓練

11 事故防止及び救急対策

(1) 荒天対策

- ・気象情報は、「tenki.jp」と「HBC お天気」から週間天気と天気図を入手する。
- ・山行中はAMラジオ（雷雲接近のノイズも兼ねる）とスマホのお天気アプリにより気象庁発表の天気予報（落雷情報・気温情報・風情報等）を入手する。
- ・休憩したときに、スマートフォンで降水、雷情報などの最新気象情報を入手する。
- ・雨具、着替え、ツェルトを携行する。
- ・使用用具の防水確認を行っておく。
- ・稜線上で天候悪化の場合、最寄りの山小屋を利用する。
〇〇荘、◇◇荘、△△休憩所 □□小屋
- ・雨など荒天の場合は、原則として登山活動を中止する。
- ・天候の予測及び登山行動の判断は幕営地の他、各山荘・ロッジなどで行う。
①〇〇岳より手前で悪天候の場合は引き返す。
□□山荘、△△小舎を利用。
②〇〇岳より進んで悪天候の場合は十分に注意しながら進む。

(2) 救急対策

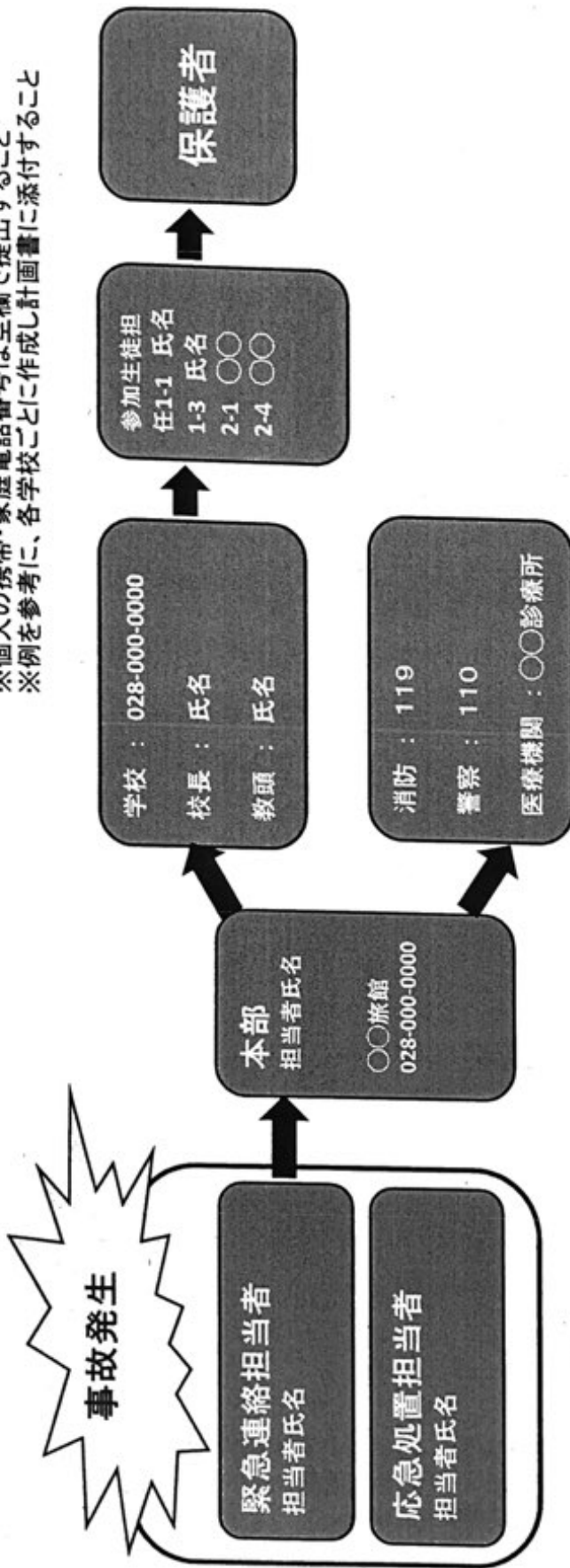
- ・トランシーバー〇台・各自携帯電話・救急医薬品一式を携行する。
- ・docomo・au・SoftBank 3社とも通話エリア内であることは確認済み。
- ・傷病者が出た場合は下山する。
- ・緊急連絡時のフローチャート作成し、する本部も含め連絡体制をシミュレートしておく。
- ・保険証またはそのコピーを持参させる。
- ・非常時の連絡体制を明確にしておく。
- ・傷病人が出た場合は直ちに下山する。
- ・最寄りの山小屋を通じて医療機関・警察などへ連絡する。
〇〇山荘、□□山荘、△△休憩所、◇◇小舎
☆星山岳警備隊派出所
- ・参加者は、日山協山岳共済会（教員タイプⅠ型、生徒タイプⅣ型）に全員加入済み。
傷害死亡、後遺障害 260万円
救援者費用 300万円
個人賠償責任 1億円
- ・スポーツ振興センターの保険には生徒全員加入済み。

(3) 事故防止対策

- ・行動開始1時間前にはスマートフォンを活用し、最新の山岳情報を入手しておく。
- ・キャンプ場の管理所と案内所にて危険箇所情報を把握しておく。
- ・事前の健康指導を徹底し、具合の悪い者は参加させない。
- ・単独行動はさせない。
- ・登山届をWeb上の「コンパス」を利用し提出する。

緊急時の対応フローチャート(例)

※個人の携帯・家庭電話番号は空欄で提出すること
 ※例を参考に、各学校ごとに作成し計画書に添付すること



地元病院

- 〇〇〇〇総合病院 〇〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇
- 〇〇〇〇整形外科 〇〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇
- 〇〇〇〇外科 〇〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇
- 〇〇〇〇診療所 〇〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇

管理小屋・地元タクシー会社等

- 〇〇〇岳管理小屋 〇〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇
- 〇〇〇〇タクシー会社 〇〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇

登山計画書提出先

- 「コンパス」(日本山岳ガイド協会)にて提出

参加者一覧

【学校名 栃木県立〇〇〇〇高等学校】

【学校または管理者 ※緊急時の連絡先を記載すること】

昼	
夜	

【引率者】		氏名	職名	教科	都顧問 年数	指導員 資格	講習履歴	過去における登山歴(登山回数)	住所	<<緊急時連絡先>> 携帯電話番号等
No.	年齢									
1	〇〇	〇〇	教諭	数学	6年	無	平成〇年 △□□講習会	南北アルプス(〇回)、県内各山	〇〇〇〇〇〇〇〇	090-〇〇-〇〇〇〇〇〇(本人携帯) 028-〇〇-〇〇〇〇〇〇(自宅)
2	〇〇	〇〇	教諭	地歴				"	〇〇〇〇〇〇〇〇	090-〇〇-〇〇〇〇〇〇(本人携帯) 080-〇〇-〇〇〇〇〇〇(妻携帯)
3										県教委に提出する際、この携帯電話番号及び緊急時連絡先の欄については空欄で提出すること。
4										
5										

【参加生徒】		氏名	年・組	健康状況	血液型	過去における主な山行	住所	<<緊急時連絡先>> 携帯電話番号等
No.	年齢							
1	〇〇	〇〇	〇年〇組	良好	A		〇〇〇〇〇〇〇〇	090-〇〇-〇〇〇〇〇〇(本人携帯) 028-〇〇-〇〇〇〇〇〇(自宅)
2	〇〇	〇〇	〇年〇組	良好	O		〇〇〇〇〇〇〇〇	090-〇〇-〇〇〇〇〇〇(本人携帯) 080-〇〇-〇〇〇〇〇〇(母携帯)
3			〇年〇組					
4			〇年〇組					
5			〇年〇組					
6			〇年〇組					
7			〇年〇組					
8			〇年〇組					
9			〇年〇組					
10			〇年〇組					
11			〇年〇組					
12			〇年〇組					
13			〇年〇組					

- ・登山アドバイザー派遣事業（スポーツ振興課事業）を活用し、現地山岳ガイドに帯同してもらいアドバイスを受ける。
- ・隊列が離れないよう注意する。引率者は隊の先頭と最後尾に配置し、無線で連絡を密に取り合う。
- ・行動を変更する場合は、アドバイザーとも相談し、校長または教頭に連絡した上で判断する。
- ・毎日行動開始前、昼、行動終了後に校長または教頭へ連絡を入れる。

1 2 緊急時の連絡体制

別添「緊急時対応フローチャート」のとおり

1 3 緊急時の連絡先

別添「参加者一覧」のとおり

※緊急時連絡先を必ず記載すること

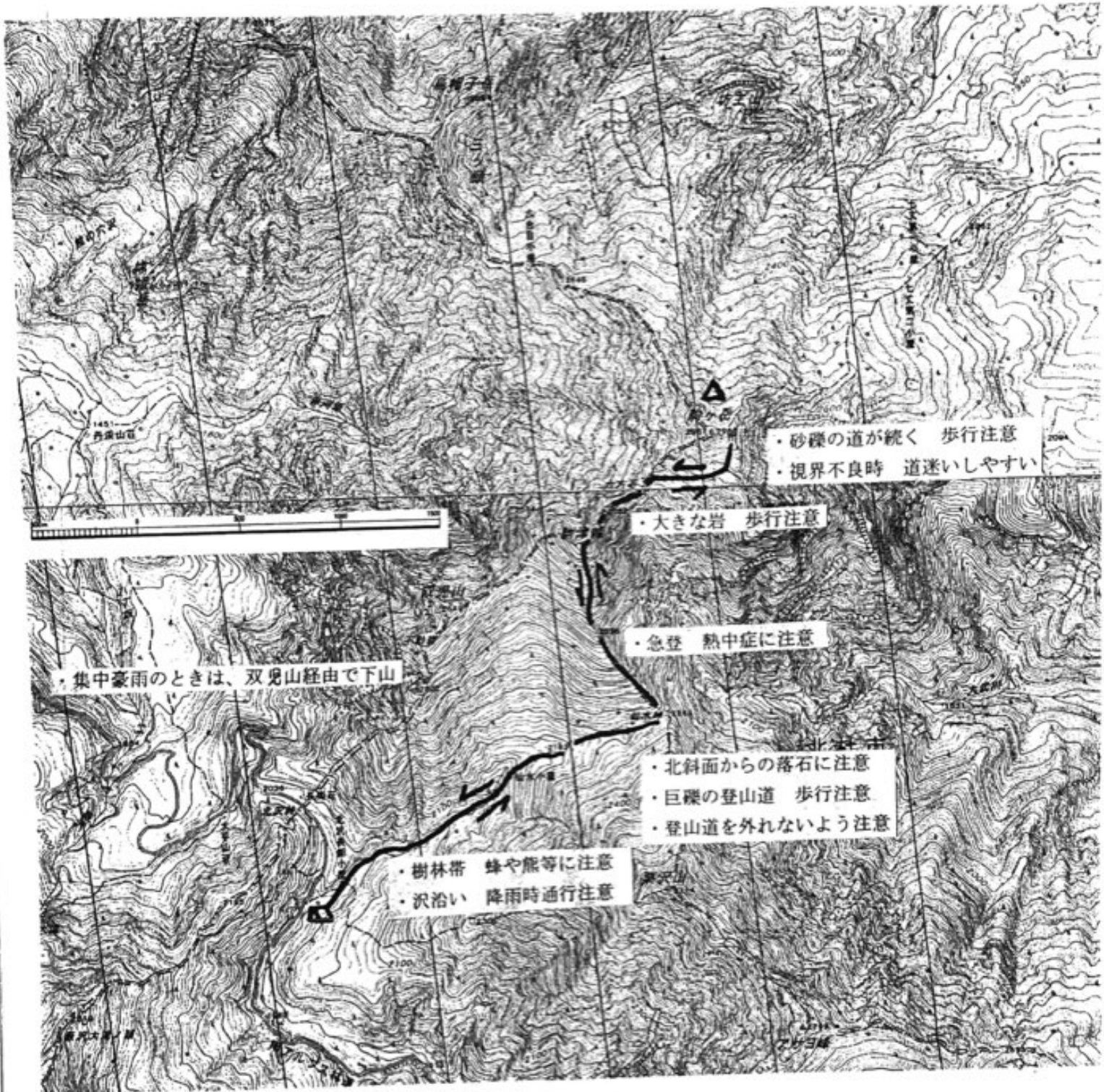
1 4 概念図

別添概念図のとおり

1 5 保護者への事前説明及び承諾

〇〇月上旬に保護者に対し、登山計画の概要について通知し、登山参加の承諾を得る予定。
別添保護者宛通知書のとおり

(注) 実施計画（別記様式4）は電子データを学校安全課宛て提出のこと。



平成〇〇年〇〇月〇〇日

栃木県立〇〇高等学校
山岳部保護者 様

栃木県立〇〇高等学校
学校長 〇〇〇〇

平成〇〇年度 〇〇合宿登山 の実施について

厳暑の候、皆様におかれましては益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。また、日頃よりご息女の活動についてご理解、ご協力をいただき誠にありがとうございます。

さて、標記の件について下記のとおり〇〇合宿登山を実施したいと思います。参加につきましてご理解とご協力くださいますようお願いいたします。ご不明な点がございましたら、ご息女を通して顧問までお知らせください。

記

1. 目的 : 登山を通じて山岳部員としての基礎技術の習得と体力の向上を図り、自然に親しむ態度と望ましい人間関係を養うことを目的とします。
2. 場所 : 〇〇山 (△△県□□市、▽▽県◇◇町)
3. 日程 : 平成〇〇年7月25日(木)～7月28日(日) 3泊4日(予備日を含む)

日程	月/日	主な行動コース、予定時刻、利用交通機関、宿泊地(高宮、山小屋の別)
第一日	7/25 (木)	〇〇高校 5:00 〇〇IC 5:10 ママIC 10:00 〇〇駅 11:00 〇〇平 11:30 〇〇 12:30 〇〇キャンプ場(高宮) 13:30
第二日	7/26 (金)	〇〇キャンプ場(高宮) 6:00 〇〇〇〇 6:30 〇〇小舎 8:00 〇〇分岐 8:40 〇〇山 9:50 〇〇山 10:40 △△山 11:00 〇〇分岐 12:20 △△山荘 13:00 〇〇キャンプ場(高宮) 14:00
第三日	7/27 (土)	〇〇キャンプ場 7:00 〇〇ターミナル 8:00/8:15 〇〇〇〇 8:25/8:50 〇〇〇〇 9:15 〇〇〇〇 9:30/11:35 〇〇〇〇 15:30
第四日	7/28 (日)	予 備 日

※ 天候悪化の場合は、現在地から一番近い建物に避難します。また、事前に荒天が予想される場合は、計画を中止します。現地到着後、二日目に降の荒天が予想される場合は、停滞もしくは帰郷します。

4. 引率者 : 〇〇〇〇 ・ ◇◇◇◇ 他1名予定
登山アドバイザー (△△△△ /□□山岳協会所属)
5. 費用 : 20,000円 (バス移動費+宿泊費+食費など)

..... (切り取り線)

参加承諾書

栃木県立〇〇高等学校長 様

この度の〇〇合宿登山への参加を承諾します。

年 組 番 生徒氏名 _____

保護者氏名 _____ 印

※ この承諾書を費用と合わせて、前日までに顧問にご提出ください。

登山等報告書 (記入例)

- 1 学校名 : ○○○○高等学校
- 2 記載者 : ○○○○
- 3 場所 : ○○岳 (○○県)
- 4 期日 : 平成29年○月○日 (金) ~ ○日 (日) 2泊3日
- 5 参加者数 : 引率教員2名 参加生徒9名
- 6 報告 :

(1日目) 6:00 学校集合 生徒の健康チェック後、校長に出発の連絡
 11:00 ○○山荘到着
 12:00
 13:00 気象情報の確認
 18:00 教頭に生徒の健康状態、明日の予定を連絡
 (2日目) 5:00
 12:00
 13:00 気象情報の確認
 18:00 教頭に生徒の健康状態、明日の予定を連絡
 (3日目) 6:00 生徒の健康チェック後.....
 11:00 ○○着
 12:00
 13:00
 17:00

事前に○○県山岳協会より、落石箇所の情報入手し、2日目の○○峠付近は慎重に山行.....

このことを.....予定通り、計画を実行した。

※ヒヤリハット事例

・2日目 12:15 頃○○峰の○○峠まで約100m地点にて、.....し、生徒2名が転倒した。2名に怪我がなかった事を確認したのち、教頭に報告し、.....下山した。

第7章 資料

1 様式

- (1) 承認申請
- (2) 登山等報告書

2 通知

平成 年 第 号
月 日

栃木県教育委員会教育長 様

栃木県立 学校長

登山等の承認申請について

このことについて、下記の計画により実施したいので、承認くださるよう願います。

記

1 行事等名





2 目 的

3 場 所

4 期 日

5 日程コース

日程	月/日	主な行動コース、予定時刻、利用交通機関、宿泊地(幕営、山小屋の別)
第一日目	/	
第二日目	/	
第三日目	/	
第四日目	/	
第五日目	/	
第六日目	/	

- 〔付記〕 (1) 日程は2泊3日を標準に、長くとも5泊6日(予備日を含む)を限度とする。
 (2)  電車、 車、 全装行動、 サブ行動で記入。

6 引率者、参加生徒
別添参加者一覧のとおり

7 装備計画 (必要なものについて、品名や数量、備考欄に記入)

(1) 共同装備

項目	品名	数量	備考	項目	品名	数量	備考	項目	品名	数量	備考
幕 営 用 具	テント(ペグ含む) テントマット ツェルト ランタン			炊 事 用 具	コッヘル 食器 しゃもじ・おたま たわし まな板セット ガスバーナー ガスボンベ 水用ポリタンク			そ の 他	ラジオ 天気図用紙 医薬品 修理具一式 トランシーバー 予備電池 衛星携帯電話 予備電池 カメラ ザイル ロール紙 ビニール袋		

※その他、山行の目的や携帯、内容等に応じ必要な装備を記入すること。

(2) 個人装備

項目	品名	数量	備考	項目	品名	数量	備考	項目	品名	数量	備考
着 用 装 備	上着 ズボン カッターシャツ セーター 下着 登山靴 靴下 帽子 防風・防水・防 寒用上着 雨具 メインザック サブザック 軍手 毛手袋 ヘッドランプ 予備電池 スパッツ サングラス			携 行 装 備	シュラフ マット 水筒・テルモス 食器 はし 手ぬぐい・タオル 洗面具一式 携帯電話 予備電池 ライター又は マッチ ナイフ 時計 地図 コンパス 筆記具 計画書 健康保険証 非常食			携 行 装 備	靴ひも 細引き チリ紙 個人医薬品 ピッケル ホイッスル		

※その他、山行の目的や携帯、内容等に応じ必要な装備を記入すること。

8 食糧計画

項目 月/日	朝 食		昼食・行動食		夕 食	
	品 名	数 量	品 名	数 量	品 名	数 量
/						
/						
/						
/						
/						
予備日						
非常食 一人 当たり	品 名		数 量			

10 事前トレーニングの計画・内容

11 事故防止及び救急対策

(1) 荒天対策

(2) 救急対策

(3) 事故防止対策

12 緊急時の連絡体制

別添「緊急時対応フローチャート」のとおり

13 緊急時の連絡先

別添「参加者一覧」のとおり

※緊急時連絡先を必ず記載すること

14 概念図

別添概念図のとおり

15 保護者への事前説明及び承諾

(注) 実施計画(別記様式4)は電子データを学校安全課宛て提出のこと。

参加者一覧

【学校または管理者 ※緊急時の連絡先を記載すること】

昼	学校名
夜	

【引率者】

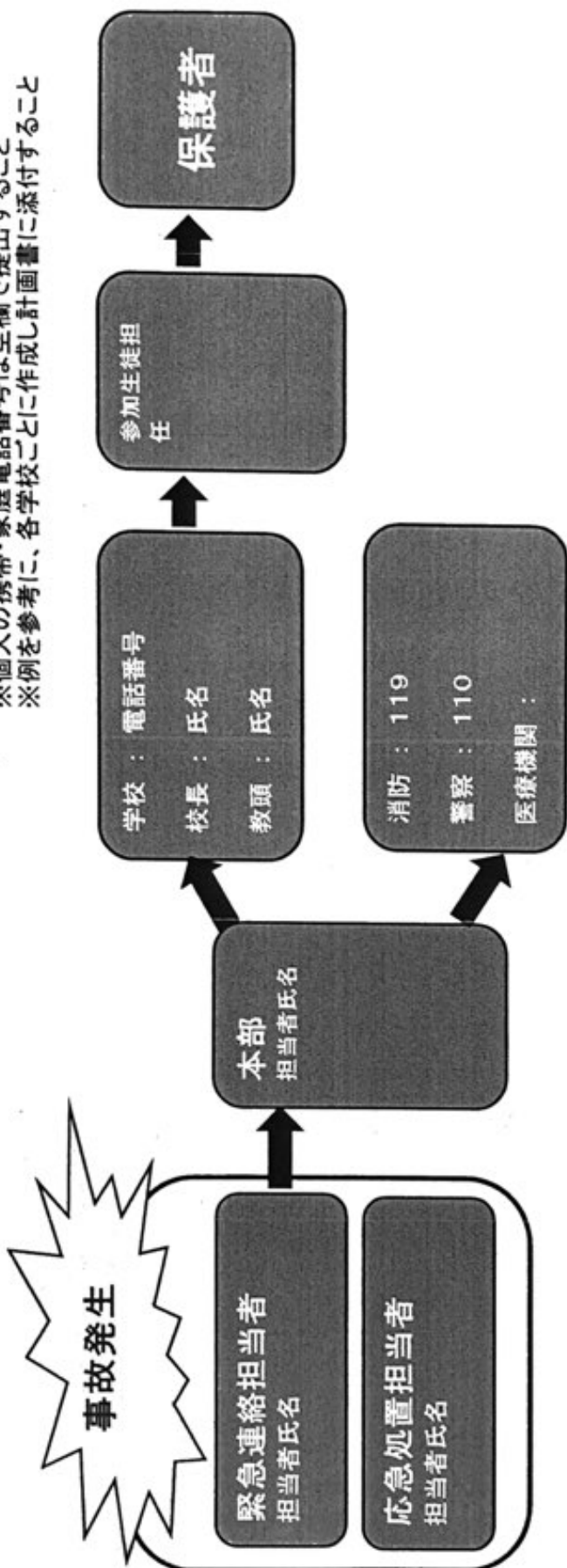
No.	氏名	職名	教科	都顧問 年数	指導員 資格	講習履歴	過去における登山歴(登山回数)	住所	<<緊急時連絡先>> 携帯電話番号等
1									
2									
3									
4									
5									

【参加生徒】

No.	氏名	年・組	健康状況	血液型	過去における主な山行	住所	<<緊急時連絡先>> 携帯電話番号等
1							
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							

緊急時の対応フローチャート

※個人の携帯・家庭電話番号は空欄で提出すること
 ※例を参考に、各学校ごとに作成し計画書に添付すること



管理小屋・地元タクシー会社等

● 名称・会社名 電話番号

登山計画書提出先

● 提出先・提出方法

地元病院

● 病院名 電話番号

●

●

●

(別紙様式2)

登山等報告書

- 1 学校名：
- 2 記載者：
- 3 場所：
- 4 期日：
- 5 参加者数：
- 6 報告：

※ヒヤリハット事例